

令和7年度 学校関係者評価 評価内容

	No.	評価項目	評価内容	学校経営目標(具体的な方策)	
				中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)
信頼される教育の確立	1	安全管理 危機管理	安全を全てに優先させ、危険予知・未然防止、安全管理・危機管理を徹底し、安全で安心な学校生活を保障する。	常に最悪の状態を想定して未然防止、初期対応を期す。	防災・危機対応マニュアルの周知徹底 児童の危機管理能力の向上
	2	コミュニティー・スクール	積極的に学校公開・情報発信を行うとともに、アンケートや個人面談、学校評価を有効に活用し、教育活動を改善する。	未来の守護者を育てる教育課程を地域とともに作る。	きめ細やかな意思疎通の推進 評価結果を踏まえた教育課程
	3	垣根のない学校	学級経営を協働し、「垣根のない学校」として、誰もが安心して過ごせる、一人一人にとって居心地の良い学校をめざす。	学年担任制の効果的な制度設計と、円滑な実施・改善。	学年担任制の構築・実施 教科担任制等の共同体制の充実
確かな学力の定着	4	学習習慣・学習規律の定着	自ら学びを生かそうとする主体的に学びに向かう力を涵養するとともに、学習習慣を確立する。	「学びのすすめ」「自主学习ノート」「寺子屋」の推進。	授業・補習と家庭学習の一体化 自ら学びに向かう姿勢の涵養
	5	基礎・基本的な学力の定着	実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得する。	学力の把握・検証に基づき授業改善を推進する。	指導と評価の一体化の推進 板書や発問する技術の向上
	6	新たな価値を創造する力	創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導き、新たな価値を創造することができる資質能力を育成する。	他者と協働し、学ぶ楽しさ、学びに向かう姿勢の向上	探究ノートの効果的な活用 自ら考え判断し表現する学習
豊かな心の醸成	7	自己有用感の醸成	一人一人の個性を生かし、相互の信頼関係を深める中で、自己の存在価値の認識等、自己有用感を高める。	自己有用感を高め、児童が個々のよさを発揮できる。	QUを踏まえた特別活動の充実 異年齢集団の活動の推進
	8	認知機能・社会性の向上	コグトレ等で認知機能を高め、感情統制、対人スキルを養い、自他共に敬意をもって関係する力を付ける。	自他ともに大切にできる豊かな心情を育成する。	認知機能や感情統制の支援 やりぬく力、辛抱する力の育成
	9	内面に根ざした道徳性の涵養	人権尊重の精神を基調に、自他を大切に、共によりよく生きるために、児童の内面に根ざした道徳性を育成する。	問題解決的あるいは体験を通した発問構成の工夫。	広い視野で考え議論する道徳 内面に根ざした道徳性の涵養
健やかな体の育成	10	健康管理 食育の推進	手洗いの徹底、TPOに応じたマスクの着脱など、感染状況を踏まえた新しい生活様式の行動ができる。	健康教育・食育推進計画を改善、充実、徹底させる。	新しい生活様式の定着 食育の計画的な推進・充実
	11	体力・運動能力の向上	基礎的な体力の向上と運動習慣、生涯に渡って積極的に運動に親しむ資質や能力を高める。	体力調査結果を検証・活用し、体育授業を改善する。	元気アップタイムの拡大充実 新しい上履きの推奨・足育推進
	12	心の居場所づくり	一人一人の居場所づくりや心に寄り添う相談など、不登校等、一人で悩みを抱えない相談体制を構築する。	様々な人と関わりをもち、悩みを話せるようにする。	全教員による個の支援・相談 SOSを出せる雰囲気醸成
輝く未来に向かって	13	言語力の向上	学校図書館の機能の充実を図り、言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力を育成する。	学校図書館活用を中心に、言語活動を充実させる。	学校図書館活用の推進 短作文・読書感想文の指導充実
	14	情報活用力の向上	1人1台端末やオンライン活用を含め、情報活用力を育成するとともに、新たな解を創造する力を醸成する。	見方・考え方を働かせながら思索する場の充実。	1人1台タブレットの効果的活用 プログラミング教育の推進
	15	探究力の向上	教科横断的に各教科等の教育内容を相互に関連付け、配列し、6年間を見通した教育課程全体を往還させる。	育てたい子供像を明確にし、教育課程全体を関連付ける。	教科等を関連付けた指導計画 総合的な学習の時間の改革